



勉強はうす

——ドロップス学習支援室——

団体名 NPO法人みんなで子育てドロップス

団体住所 岐阜県恵那市長島町正家 613 の 10

連絡先 0573-25-7121

開催日時 毎週火曜日 16:00~19:00

スタッフ 塾講師経験者 2 人、学童保育経験者 1 人、子供若者支援NPO経験者 1 人、退職教員(小中教員免許) 1 人

サポートスタッフ 障がい者PC教室主宰者 1 人、生涯学習インストラクター1 人、現役教師、牛飼いのお姉さん等々

対象年齢 小学生、中学生

登録人数 6 人

来ている子の数 1 回あたり 6 人

費用・予算 70 万 (赤い羽根 20 万、岐阜県子育て支援活動活性化促進事業補助金 50 万)

目的 子供たちが、多くの人とふれあうなかで、人にはいろいろな考えがある事を学び、その中で自分らしさを見つけていくこと (自己肯定感の構築) を支援する。

実績・効果

28 年度から社協の赤い羽根の補助金を受け、ファミリーサポートを利用した送迎付き学習支援を計画し実施した。29 年度は赤い羽根と県補助も受

け年間活動を行うことができた。

最初は緊張していた子供たちも徐々に落ち着いて勉強し仲間と集団で遊べるようになった。だんだんと何事にも積極的に参加するようになってきた。

来所すると最初に「今日はどんな勉強をするの?」とスタッフが聞き子供たちが答えるところから始まる。勉強は 2 階で行い、勉強が終わった子から下に降りスタッフとおやつを作ったり、みんなでトランプをしたりして遊ぶ。最後はお茶とお菓子を食べながら次回のおやつの計画でも立てながらおしゃべりをする。迎えに来る親御さんとも一緒にお茶を飲みながら、子供のことや生活等について相談を受けることもあった。

おやつの材料等は関連する子ども食堂のNPO から無償で提供されるものを多く利用できた。専門性のある課題はサポートスタッフのアドバイスを受けて、学習指導に参加してもらったりするなど人的ネットワークの活用もできた。

子供たちは毎回大変楽しそうに参加することができた。

周知方法

募集の入り口を子育て支援チームの担当者一本に絞った。最初はチラシを配ることや、校長会で説明するなど幅広く考えたが、逆に生活困窮の子が参加することを広く公にすることになると考えられるので周知をしない事にした。

多くの人に存在を知ってもらい協力してほしいことと、ここに通う子が困窮家庭である事が知られたくないということの両立が難しい。

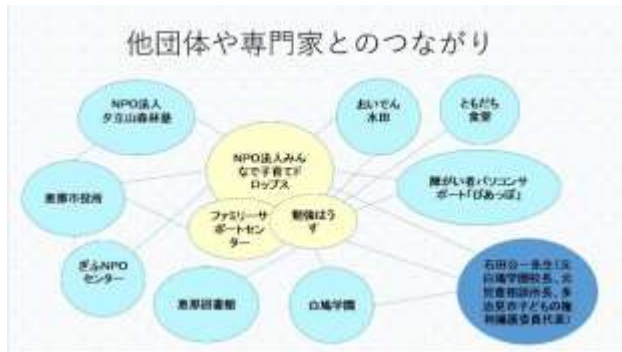
支援内容・特徴

ファミリーサポートによる送迎付き寄り添い方学習支援であることが 1 番目の特徴。

長年、地域に根差した子育て支援活動を行ってき、いろいろなNPOの人的資源のネットワークがあることが 2 番目の特徴。

3 番目の特徴は、河川敷に隣接したモデルハウス(ログハウス)を低額でお借りしているので、公

民館の1室とかでなく、子供たちにとって家庭的イメージの場所で行うことができること。また、歩いてすぐの場所にサッカー場もあり、自然環境には大変恵まれている。



工夫している点

- ・平日はどうしても遅い時間帯になるので、公共交通のない田舎型の学習支援では送迎が必要。ドロップスでは送迎付きのサービス（ファミリーサポート）を用意し、必要な子には無料で行っている。

- ・学習内容は宿題中心でそれぞれのスピードに合わせて行っている。その他には、PC専門のサポート



トスタッフのアドバイスでキー入力等の練習をしたり、夏休みの読書感想文指導は図書館サポートスタッフに協力してもらったり、市が募集したシンボルマーク

デザインに応募するなど行った。

- ・おやつは毎回手作りの簡単なものをみんなで工夫して楽しんで作って食べる。材料は関係する子ども食堂のNPOスタッフから無償で提供される果物や野菜などを利用した。ポップコーン、白玉団子、グミ、果物の飴かけ、ゼリー、大根もち、ラスク、大学芋、鬼饅頭、ミニフランクフルト、おにぎり、大あんまき、たこ焼き等。



- ・その他にも勉強の後の短い時間であるが学校の

勉強にとどまらずいろいろなものに興味を持てるよう、スタッフの得意な事や子供たちがやりたいといったことなど織り交ぜるような内容を加えた。双六づくり、スライムづくり、ミニほうきづくり、スピンドルで糸づくり、映画会等。

苦勞した（している）点

- ・備品としての教科書が無かった。→市役所の子育て支援チームのネットワークで集めて寄付してもらうことができた。

- ・28年度末、子供たちで自主的に行事を企画するように進めようとしたが、別日の日中の時間帯を子供たちが決めていく事は、学年学校もまちまちで調整が難しいことが分かり、結局、いつもの火曜日で第3に1時間延長し映画鑑賞をやることにした。映画はある程度選んだもの10作あまりの説明をし、後は子供たちに選ばせた。

今後の課題

- ・親とのやり取り。必要なときに必要な事を聞く方法、関係づくり。

- ・参加している子が友達を連れてきた時の対応を決めておく。

- ・勉強を深めるためのスタッフの能力アップ。

- ・時間が短い。1週間に1度、約2時間で何ができるのかという声あり。

- ・子供の自主性を育てたいが、急にはできないので少しずつ。

- ・資金不足、無償ボランティアスタッフ不足。都会なら大学生のボランティアを募集するなどできるがそもそも大学生がいない地域。長期休暇などに教育大学の学生が参加してもらえるといい。

- ・毎回宿題に追われて、ゆとりのある内容を行う時間が無い。

- ・年度ごとに何らかの方法で活動評価をし、今後の方向を決めるようにしていくといい。

その他

- ・28年度末、参加していた兄弟が3月末に引っ越すことになった。「いつでもおいでよ。どこに引っ越すのか教えてよね。手紙出すからね。」と終わり

のない関係が続くことを伝えた。

サポートスタッフの意見

・足立伊公子

文部省認定生涯学習インストラクター（パソコン・絵本作り・読み聞かせサポーター養成講座等）
恵那市中央図書館事務局として数年小学校向け「読書感想文講座」のスタッフ経験。大学で国語科教職課程修了し、中学生家庭教師経験あり。

.....

質問：中々勉強が充実しない、宿題を早く終わらせ、その後の遊びとおやつに気持ちが行ってしまう。どうしたらいいか。

答え：毎回終わった時に、それぞれの子の苦手ポイントを意識できるようアドバイスするようにしてはどうか？別ノートを作るとか。たとえば計算の中でも間違える癖を見つけてあげるとか、単元の中でつかんでほしいことを掴んでいないとかには注意を配るべき。小中は学校の宿題をきちんとやっていたら大丈夫。

・駒宮博男

NPO法人地域再生機構理事長、NPO法人地球の未来理事長、ぎふNPOセンター元理事長等、スタッフが足りない時に1回参加。

.....

ドロップスが行っている学習支援は、「居場所、学習支援、子供食堂」という複合的的事业だ。それは子供のニーズに合わせて自然とそうなっている。子どもたちに出来るかぎり食べ物を作らせることは、本来の生きる力を育てている。子供食堂より子供たちで作る点が参加型でいい。国数社理でない生きる力を育てる学習支援に繋がっている。

デンマークでは一方的な教育は10%しか効果がないということが実証されている。教師は子供たちに「考えさせる」教育を行っている。日本でも中教審が今後の教育改革の中で、アクティブラーニングが重視されると発表しており、新しい教育指針を先取りしたものになるのかもしれない。

(参考:新しい学習指導要領等を目指す姿

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364316.htm)

岡山県のある子供キャンプでは毎朝こども会議を開き今日何やるかを自主的に決めさせ、大人はそのサポートをするというキャンプをしている。大人はサポートに徹する、その意識を持たないとだめだ。

・山田幸恵

障がい者パソコンサポートえな代表、パソコンを利用した子供たちの学習についてアドバイザーとして参加。

.....

私の関わっている中で、母親に視覚障害があり普通の家庭より親に教えてもらうことが困難な家庭があった。彼女の依頼で、子どもたちにインターネットによる学習の方法を教えた。それがきっかけで自主的にどんどん勉強を進めていけるようになった。

パソコン教室のメンバーの中には障害があるために、スカイプを通してのチャットでなら会話ができる人がいる。逆に、子供たちの中には、何らかの困難が環境にあり、人に教えてもらうチャンスが少ない子供がいる。サポートスタッフのネットワークができることで、子供たちだけではなく障がい者の方たちにとっても居場所になるのではないかという可能性を感じる。

・牧野香

NPO法人みんなで子育てドロップス代表、特別参加しりんごヨーグルトを作りに参加。

.....

友達を連れてきた子がいた。結局親御さんに説明し断ったそうだが、ファミサポで送迎しなければOKではないかと思った。利用できる子の幅を広げていいと思うが、ファミサポの送迎はだめ、来たい子はウェルカム、親もそれが分かっている。

ば限定はしなくていいのではないかと思う。おやつ代はもらうほうがいいかな。ファミサポはお金いるという事を今利用している親御さんにも伝えておくといい。そこをすっきりさせておくといい。今後も同じケースは出てくるだろう。

勉強については参加しなかったからわからないが、成績順を見てお金があれば恵まれていればもっといい塾に行き上に行けるのに悔しいと思う子と、勉強が苦手でそんなことは考えない子がいる。土曜の子供の生活は2分化されている。土曜に開催するとそれが分かるだろう。また、土日の中高生の居場所も必要だと思う。

